

地区懇談会における主な意見

「公共施設マネジメント事業計画」策定に向けて実施している地区懇談会において、第1回・第2回実施の際に出された意見の中から、共通していた意見や特徴的な意見をまとめた資料です。

【第1回地区懇談会】

1 市の課題・地域の課題など

- 入間市は自然も多く、住環境の整った都市である。また、災害も少なく安全性も高い。さらに、西武鉄道、圏央道、国道16号など交通アクセスの面でも整った地域である。
- 市内や地域内の交通の便が悪い。特に高齢者が公共施設を利用する場合は、利便性が良くないと利用しにくくなってしまう。公共交通の整備と併せて考える必要がある。
- 人口減少対策や産業振興を行うことで人口が維持されれば、公共施設の再編は必要なくなるのではないか。

2 公共施設に対する全体的な意見

- 公共施設の再編成は全国的な課題であるが、入間市の特性を考慮して、市民と行政と一緒に考えるとといった取組が必要ではないか。
- 公共施設マネジメントの地域区分と、自治会の区域、学校の通学区、体育協会や老人会、消防団等の地域設定との不整合があり、9地区の地域区分では検討しづらい。
- 公共施設は避難所など防災拠点としての役割もあるので、そうした視点からも配置を検討する必要がある。
- どこの施設も老朽化が進んでおり、またトイレの洋式化なども進んでおらず、きめ細かな修繕が必要ではないか。
- 現在の状況や将来予測を見ると、子どもや孫の世代に負担が残ってしまうのではないか。現代の市民が多少は我慢をしてでも、次世代の市民のためになるような公共施設の再編成を考えてほしい。
- 公共施設の代替として、空き家の活用なども検討してみてはどうか。また、地域にあるコンビニや駅などと連携して公共施設の不足を補うようなことも考える必要がある。
- 公共施設の駐車場確保が大事である。
- 駐車場は整備してもさらに不足が生じてしまうので、あまり拡大することを考えなくてもよいのではないか。
- 長期的な計画なので、若い世代の意見を聞くべきである。
- 地区に配置する公共施設は、自治会館や老人憩いの家といった集会場と公民館の配置関係、役割分担を見直し整理すれば、うまくいくのではないか。
- 公民館や学校の多目的化は良い考えだと思う。

3 施設種別ごとの意見

<公民館>

- 地域の拠点として、多くの人が集まる施設であり、今後も地域の人が集まれる施設であるべき。そうした視点から再編を考える必要がある。
- 利用者の高齢化が進み、このままだと利用者は減る一方である。利用範囲や対象を広げたり、利用方法や活動内容などを積極的にPRするなどの対応が必要ではないか。
- バリアフリー化などが進んでいない施設があり、使い勝手が悪い。

<小中学校>

- 統廃合を行う場合は、通学距離が遠くなる児童生徒が出てくるため、通学手段の検討が必要である。
- 現在取り組んでいる小中一貫教育は良い取組なので、その効果に配慮した再配置を考えるべきではないか。
- 現在は複雑に入り組んでいる学区の再整理のチャンスととらえてもよいのではないか。

<老人憩いの家>

- 身近な場所からなくなってしまうと利用がされなくなるのではないか。
- 老人クラブの会員が減少しているため、自治会館と老人憩いの家の境をなくして相互の交流を図ることは大事なことだと思う。

【第2回地区懇談会】

1 市の課題・地域の課題など

- 公共施設の統廃合の前に、又は並行して人口減少対策や都市整備の問題を検討する必要があるのではないか。そのことによって、公共施設の再整備・再配置のあり方も変わってくるのではないか。
- 市街化調整区域を市街化区域に編入し、人口減少対策としての基盤整備を行う必要があるのではないか。

2 公共施設に対する全体的な意見

- 長期的に考えた場合、公共施設の利便性を高めるためには地区の中心部に配置するような構想を持ってもいいのではないか。
- 統廃合は避けられない課題であるが、施設数が減ると避難場所の確保などの課題が出てくるのではないか。
- 公共施設の再配置を考えるには、並行して周辺のインフラ整備も考えてもらいたい。
- 地域対応施設だけでなく、広域対応施設の見直しも検討してほしい。
- 今後の高齢化を考えると自宅から近い場所に地域住民が集まれる場所が必要ではないか。

- 統廃合により使わなくなる施設の活用策を、あらかじめ考えておく必要がある。
- 多くの公共施設は人口増加時代に建てられたものであるため、人口減少に伴う縮小は必要であるが、高齢者対策として交通手段の確保やその他の対策が必要となってくるのではないかと。
- 現在ある施設の「長寿命化」についても、より期間が長くなるように検討してみてもどうか。地域のシンボルとなっている現在の施設の価値を高めてほしい。
- 人口減少対策の一環として、地域の公共施設の充実も魅力の一つになるのではないかと。そうした視点からの検討も必要である。
- 公共施設を減らすことが住みにくさにつながり、さらなる人口減少につながってしまうのではないかと。
- 全国的に先進事例がたくさんあると思うので、参考にしてもらいたい。

3 施設種別ごとの意見

<公民館>

- 稼働率が低いのは、利用者間で利用したい時間が重複しているからではないかと。また、施設機能が陳腐化しており、現在のニーズに合っていないことが考えられる。
- 老朽化に伴う修繕や、バリアフリー化を進めてほしい。
- 地区センター化については、他自治体での失敗例もあるので、行政の効率化という視点だけで進めないでほしい。
- 複数の機能を持たせることは良いが、それがうまく機能するように組織体制の整備についても十分に考慮すべきである。
- これからの公民館には、子どもや高齢者の居場所となるベンチやサロンの設置を考えてほしい。
- 地区センター化については、現在の施設を活用して対応できるのか不安である。

<小中学校>

- 地区外から通っている児童生徒がいる学校も多い。通学区については学校ごとの児童生徒数のバランスを取ることも大事だが、地区で明確に分けたほうがわかりやすい。また、通学区の見直しは机上ではなく、よく現地を見て考えてほしい。
- 小中一貫教育を目指すのであれば、学校の再配置を考える前に「小中の連携」という明確なテーマを掲げるべきではないかと。
- 学校を再整備するには「元気な子どもが育つまち」というテーマを意識した検討が必要ではないかと。
- 教育環境や水準を考えると、統廃合することが良いのか、メリットとデメリットをよく考える必要がある。
- 児童生徒数が多いとメリットもあるため、統廃合はよく検討した方がよい。
- 統廃合はやむを得ないが、学童保育室も含めて教育環境は充実させてほしい。

- 統廃合は必要だと思うが、現在の9地区に1施設ずつだと範囲が広すぎるのではないか。
- 小中学校の統廃合や学区の見直しについては、ぜひ子どもたちの意見も聞いてほしい。
- 小学校の統廃合は地域の歴史を変えることにもなるのでよく考える必要がある。
- 母校がなくなることに対する心の問題も考慮してほしい。
- 小学校と保育所の複合化については、検討すべきと考える。

<保育所>

- 縮小するとなると、人口減少対策と逆行することになるのではないか。
- 保育所を整備することは、若い世代を呼び込むきっかけになるのではないか。
- 保育所の再配置は駅の近くにするのが望ましい。

<老人憩いの家>

- 高齢化が進むと和室の場合座りづらくなってくる。椅子の整備も必要ではないか。